



こども・若者と共に考えるユースワーク

地域円卓会議 in 那覇

いつでも、だれでも居られる「機会」と「時間」、
そして「つながり」を支えるユースワークのあり方を考える

実施報告書

日 時： 2025 年 11 月 19 日（水）18:15～21:00（受付開始 17:45-）
場 所： なは市民活動支援センター会議室 1（那覇市銘苅 2-3-1 なは市民協働プラザ 2 階）
共 催： 那覇市、NPO 法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい
企画運営： NPO 法人まちなか研究所わくわく、公益財団法人みらいファンド沖縄

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】 こども・若者と共に考えるユースワーク地域円卓会議 in 那覇



■日 時：2025年11月19日（水）18:15～21:00
■場 所：なは市民活動支援センター会議室1
■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：62名（NPO・市民活動団体等、大学、企業等）

■共 催：那覇市、株式会社大翔
■企画運営：NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

論点提供

室伏 長子（NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい ユースワーカー）

いつでも、だれでも居られる「機会」と「時間」、そして「つながり」を支える ユースワークのあり方を考える

こども若者にとって、課題を抱えているかに関係なく、「自分らしくいられる」「ほっとできる」機会や時間は大切です。ここ数年、生活に困りごとを抱えるこども・若者たちへの支援は増えてきましたが、困難な状況になる前の支援は、まだまだ足りていないのが現状です。NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆいでは、「ユースセンター・アシタネ」を立ち上げ、予防的アプローチの取り組みを始めました。小さな“やってみたい”を形にしていく経験は、自分で選び、決めて動く力と、自分たちの場をつくる自由さを育てていきます。今回の円卓会議では、そうした機会や関わりをどうつくっていけるのか、ユースワークの役割やあり方について、みなさんと一緒に考えます。

※当事業は、なは SDGs 推進助成事業に採択されており、この円卓会議を皮切りに多くの仲間作りを出資という形で支えるというチャレンジも行う予定。

センターメンバー



室伏 長子
NPO法人沖縄
青少年自立援
助センターち
ゅらゆい ユー
スワーカー



村吉 陽翔
ユース
センター・
アシタネ
利用者
高校2年生



屋良 陽子
沖縄県立
真和志
高等学校
教頭



伊禮 道子
那覇市
中央公民館
館長



山崎 新
こどもの権利
ネットワーク
おきなわ
代表理事



田邊 裕貴
株式会社
アザナ
代表取締役
社長



川中 大輔
関西学院大学
人間福祉学部
専任講師、シ
チズンシップ
共育企画代表

令和7年度なはSDGs推進事業
～多様なつながり地域づくり～

2024～2025年度
助成事業
SIB加算外

2025.11.19(水) ①
18:15～21:00
④なは市民活動支援センター

こども・若者と共に
考えるユースワーク
地域円卓会議

いつでも、だれでも in 那覇

居られる「機会」と「時間」、
そして「つながり」を支える
ユースワークのあり方を考える

(論点提供)
室伏長子
村吉陽翔
屋良陽子
伊禮道子
(司会)
南信乃介
川中大輔
田邊裕貴
山崎新

共催 那覇市
NPO法人 沖縄青少年自立
援助センター ちゅうゆい

企画・運営
NPO法人 まちなか研究所 わくわく
(公財) みらいラボ 沖縄

②

論点提供
室伏長子
NPO法人 沖縄青少年自立援助センター ちゅうゆい
ユースワーカー

子ども若者
3Dボカシ
社会的孤立
問題の解消

多様な
遊びの
創出

子ども若者と
パートナーとして

「狭間」で必要な支援が届かない
/ 続かない若者

- 支援の切れ目
(15・18・20歳)
- 児童館・公民館は、
中高生以降 利用づらい
- 予防的支援の不足

声に応え 制度の
狭間を埋めてきた通り 2007～

ハイリスク支援を土台に、
「困る前」の段階から関わる
予防的支援へ

子ども支援のひろがり
↳ 中高生以降の若者支援不足

子どもの貧困率
29.9% → 21.8%

県内の居場 361か所 那覇市 83か所
数が不足

ハイリスク
アプローチ
ポゼッション
アプローチ
同じ「切れ目」
利用への
ハードル

② ユースセンター・3シタネの実践

那覇市松川 平日夜間、土日日中

※ 公的機関・サービスが
ない時間帯

2023.4~2024.3

開所 229日 のべ 1,021名

2024.4~2025.3

開所 ~~229~~ 86日 のべ 552名

③ 北欧のユースワーク

余暇は
「権利」

スポーツ
「権利」

参加が
当たり前の
「権利」

移動型
「権利」
フォーラム
型

若者の民主主義と余暇を育む

自分で選ぶ・決める
経験

回復・回復性
学びの時間

小さな「やってみよう」と形にしてい
経験は、自分で選んで決めて
動く力と、自分たちの場をつくる
自由を育てる

一緒に考えたい!

- ✓ 沖縄型ユースワーク
- ✓ 困難になる前に
ユースセンターとは? 若者が足を運ぶ
には?
- ✓ 機会・時間・つながりと
沖縄でどうつくりいけるのか?

③ 村吉陽翔さん

ユースセンター・3シタネ 創刊者

オンライン → 顔がみえない安心感

県外視察 → 北海道へ

3シタネ → 週6日いる
kukulu 行った後

小6: 不登校 → kukuluへ

中3: ユースセンターできて、利用へ

共通の話題・いっしょにやることで
「また明日も行こう」

おしゃべり、ボードゲーム、料理
と日によってやることかわる

外での
出会いは
本欲也

③ 屋良陽子さん

沖縄県立真和志高等学校 教頭

R9年度 学科改編

全日制・単位制普通科 ⇒ 総合学科

3シタネ・繁田公民館との連携

ボランティア体験 → 単位に加算 (上限
4単位)

地域貢献学

小・中 学校へ通えない子たち
好きな分野みつけてほしい
地域につながることで

情報少ない

生にも知ってもらい、体験して
キャリアへつみあげる

地域とつながり、支える
存在になってほしい

国の方針
校長の方針も

支える
側への
成長を

伊禮 道子

那覇市中央公民館 館長

那覇市 7館 (公民館)

市民の学習活動・交流の場

子ども～高齢者 9～22時

利用1287件 うち高校生以下95件 (7.4%)

→人口比 (15歳未満 4%) の比にある

ダンス・学習・音楽・ゲーム・料理

中高生たくさんきてほしい。 エッセイ部

公民館がみえてない子たちもいる

どう知ってもらうか。

放課後の時間はイカて空いている

利用団体いなかったらホール開放
した

山崎 新

子どもの権利ネットワークおきなわ

いっしょにあそぼう

みまもつてほしい

昨日、今日 何がかかった?

みまもられる世界の中で、
“やりたい” がでてくる

なほ市内11館の限界

中高生の利用率 → 全国一
(沖縄の児童館)

高校卒業 → 7月仕事やめて、さあ
どうしよう

やすむ、〇〇をやる

意見表明 → どうしようか。

共有、わかま言える

社会全体で
たのむ

子どもたちの〇〇やりたい。
せばまっている

無料でいれる場
がない

健全育成

セキリティが社会で高まり

居場所もうばっているのでは

余白の時間 → 社会で価値として
認められない

大人のニーズから子どもを守る

子どもの時間もうばっている

習いごとなど

社会の
働き方改革

ハイジョ

子どもの権利

ユースワーカー

よりそう人 そんな人

田邊 裕貴

株式会社アザナ 代表取締役社長

ゲーム・プロデューサー WEBブランディング

子どもの貧困の連鎖

子ども食堂 → 対処療法

食以外で提供できるものを

子どもの権利侵害するのは

会社 働き方

キャリアが守られる

自分に余ゆうスペースもつる

企業もかわらないといけない

大人

社会



川中大輔

(財)西学院大学 / シチズンシップ共育企画

わがまま ^{〜 言う}

ユースワーク: 若者が幸せになる

“この人に言ってみようか” と思える

“やりたいこと” がわからない ^{〜 みにくくなる}
 やりたかったことを
 とりもどす。

1対1の関わり ^の 限界
 いろんな人・色々な人との
 まじわりをつくる。

生きていきやすい地域・社会
 ユースワークは地域・社会へはたらきかける

不登校の子は学校に馴染む先生
 大人・しくみが変わっていく必要
 若者にまかなくてわからない

意見表明権

view (opinion)

モノのみかた・感じ方

場・空間・しくみをかえていく実感
 かなって
 言えない

ユースセンターの予算の
 配分を若者が決める

ほいしてもに届く。
^{ほらと}

長らく [〜] 気づかせるしかけ
 生徒手帳
 フロ-

自助努力
 にかたよる
 のはあな
 ↓
 社会全体
 で

サジェスション

誰が利用できる?

自分がつながれない

予防 / ハラスメント

5人家族
 神奈川県
 高専 → 企業
 職職 → 自死

弟 亡れた

わがやうな
 みえ方

自

わがまま
 きいてほしい

カレンダーみて
 やってみたら

でもやり方わからない

たれかといっしょに
 やりたけで
 実現できない

関わり方がむずかしい

お互いが
 しかけが必要

みんなていっしょに
 やりたい。
 をどう...

■今後のアプローチの方向性

1) 中高生を支えるユースセンターの必要性

中学卒業や18歳は制度の切り替わる節目となり、支援や情報が途切れやすい。中高生は気持ちや興味がゆらぎやすく、その自由さを受け止め安心して過ごせるユースセンターが求められる。ユースセンター、児童館、公民館、それぞれの機能を活かしながら連携し、若者に居場所の選択肢を作っていく必要がある。

2) こども・若者の「余暇」は権利

こども・若者が安全に自由な時間を過ごせる余暇は、本来保障されるべき権利だが、現状では「余暇」は十分に必要な価値として認められず、さまざまな場面で奪われている。これを可視化し、策定中の那覇市「子どもの権利条例」に余暇や遊びを明文化し盛り込むことが重要である。

3) 那覇におけるユースワークの定義

こども・若者を中心に据えたユースワークでは、関わる大人の役割を明確にし、常に利用者周囲の関係性や変化を意識し活動することが重要である。スタッフの専門性を活かしながら、那覇の子どもたちの状況に合わせたユースセンターとユースワーカーのあり方を、その場所だけでなく人材配置とセットで定義していくべき。

■参加者によるサブセッション

いつでも、だれでも居られる「機会」と「時間」、 そして「つながり」を支えるユースワークのあり方を考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 大人も忙しい→ 遊びにも誘われない
- ・ 会員の参加者多い 若者支援の関心高い
- ・ 中学生 6.7月からアシタネ利用
- ・ 学校、児童館、公民館 熱意ある人いるのに 違う方向向いてる
- ・ ククルは支援している感覚ない 一緒に遊んでいる
- ・ 歌いたい人が歌える
スタッフもやりたいことできる→スタッフはどこまで自分見せる
- ・ 学校→もっと自由にしてほしい
- ・ 小学校高学年から不登校多い
- ・ 児童館キャパの問題
乳幼児の対応しながら 不登校の対応できない

②

- ・ 何がしたい? ときかかれても答えられない
- ・ 選ぶにも体験がないと決められない(オレンジジュース? トマトジュース? グレープジュース?)
- ・ 雑談で
これ好き やってみたい→try 失敗してもOK おもしろがる チャレンジできる♡
- ・ もうちょっとゆっくりすればいいのに!
中学→高校→大学? スピードが早い!! 「疲れた・休みたい」
- ・ おとなは価値感が固まってしまっていて今の若者の気持ちは分からない!!
- ・ 若者にききたい

③

- ・ 関わりの段階・・・?
- ・ かかわり方が むずかしい
- ・ 「子どもを理解すること」といわれるけど大学生でもむずかしい
- ・ 知る
- ・ 「こういう時どうしてほしかった?」って言われるしききたいと思うけど自分で考え
- ・ 行ってやらないこともない→ないと生きられないからだになってる
- ・ “ガチわがまま” きてほしい
- ・ 行動おこさないから実現しない
おこし方がわからない
- ・ 言いたくなる話題に食いついて
- ・ 大人→ 子どもへの関わりむずかしい
- ・ 子ども→のっかってほしい。
「やって」といわれてもどうしよう...
- ・ やりたくなるしかけ
- ・ やりたいときに実現できる環境
└つながりが必要

④

- ・ 居場所が小学校の近くにあると行っても孤立してしまう→すでにグループがある
ロケーション、スタッフが大切
- ・ 子供たちは居場所の雰囲気にもよる
- ・ 不登校もみんな同じとして居場所をつくる
- ・ (感想)皆が立場もちがう中たくさん集まってどうにかしようとしてくれている
- ・ 選択肢が多いといい
- ・ 100%合致することって少ない
- ・ 同じ属性の人があつまるところと色んな人があつまるところ両方あっていい

- ・ 元気になったら人とかかわるような選択肢が◎
- ・ 居場所があった上でどのような支援ができるか。

↳やる気が出るようなこと

⑤

- ・ 寝る子もいるけどそれだけでもいい。場所に“目的”をもとめすぎ
- ・ 大人と対トウに話す機会が必要
- ・ 大人と子供一緒にゲームや勉強出来る場所が必要
- ・ 考えなさすぎるのもよくないけど考えすぎる(子のことを)大人もふえてる
- ・ 時間がなさすぎ(何もない時間)

⑥

- ・ 南風原町社協委任
- ・ 中高生の居場所
- ・ 予防的アプローチ
- ・ 児童館、卓球) 居場所どこにあるか知りたい
- ・ 兄弟、兄自殺、弟、問題行動、負のサイン、切れ目が危ない
- ・ 分かりにくいハイリスクー内にこもる
- ・ 人権擁護、若者の居場所、法務大臣委嘱

⑦

- ・ 発信しなさいよと言われる
- ・ 行政は「もれなく発信」と思っている
└こぼれる。見にくい。だどりつきにくい

- ・ 必要なときにとどく仕掛け◎
- ・ 学校とは難しい
- ・ 真和志生徒に向けて発信している
- ・ 高校が中継している
└中継点必要

- ・ つなげてくれる人
- ・ 家庭環境
- ・ 親が決めちゃう

- ・ 学校に掲示などは?
- ・ 行政システムは (知ったもん勝ち感)
- ・ 発信弱い? (結果のみ) 手段×
- ・ 制度 (大人同伴) など
- ・ 発信の質 行政の特性



必要な情報の中継地点

- ・ システムの利用

⑧

- ・ 学校に行けてなかったけど居場所に行けなかった
- ・ 成人した後の支援について 予防はどういう場所があるのか) イメージ
- ・ 友人が居場所を必要としてるけどこれない。(プライド)
- ・ 楽しさを知っていく
- ・ 初めの1歩が必要 ←居場所につながるためには?
- ・ 情報が必要。
- ・ 社会をつくる
- ・ 先入観がない
- ・ 入口が広い
- ・ 社会のすごしやすさ
- ・ 自分の考えがゆうせん
- ・ 学校のあり方
 - 個人の自由度
 - 学校での居場所

⑨

- ・ パーラー問題、うがんぼう ポイ捨て..排除
- ・ 人と関わる場所→仕事しかない
いっしょに楽しめる場所
- ・ こども・若者のしあわせ
- ・ 自治会、こども会
- ・ 意見を言える
- ・ こどもの貧困対策
- ・ あらゆるところに線引き
- ・ 空白の時間に集まれる

- ・ 不登校でもルール「どこからきてもいい」

⑩

- ・ 大人の余暇余白について改めて考えた
- ・ 余暇なにしてる?ゲーム・音楽、中々ない、子どもがゲームばかり、釣り、友人

⑪

- ・ むずかしい話をしてるなー
- ・ ユースセンタースタッフでもあるがその場に娘も来ている
- ・ 子どもにとって安心ー親(移住者、ひとり親)も安心ー子どもも安心
- ・ 得意を提示する場をつくった(まわし高校)

⑫

- ・ ①居場所
食事の提供だけでは良くない
インパクトがあった。
- ・ ②児童館公民館に弟(中学生)が行ってる。
→来てもいいよの声かけがあった。
つながりがあっていいなと思った。
- ・ ③子どもの居場所
大人の事情でなくなっている。
[部活動がなくなっている]
保ゴ者が見てくれていたら良いけど、みれない学校だと部活動がなくなっている。地域格差うまれている。
- ・ ④19 さい!!
色んな人・年代と関わってみたい。仲良くなりたい

⑬

- ・ 子ども若者メンバーでの円卓会議できたらいいなー
- ・ 若者の声
- ・ 不登校、ひきこもり経験者でもあった...
- ・ 居れる場所が増えてきている!
- ・ 自分が困っていた時は 公民館のとりくみも

知らなかった

- ・ 選べるせんたく肢が増えている
- ・ 合う場所、合わない場所 がある!!

⑭

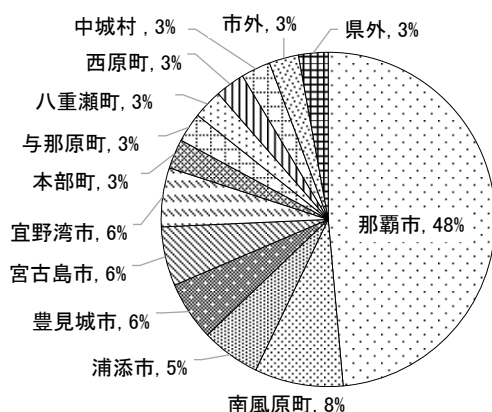
- ・ 熱意が伝わった!
- ・ これからのことかと思いきや今もう...
- ・ **居場所**
└ちよくちよく行ける、自由に遊べる、イベントとか考えてできる(音ゲー交流会)、kukulu みたいに
- ・ あらゆる場所追いやられている
- ・ 学校 NOT「収容所」くらい、楽しくない
- ・ 家は共働きで疲れているし居場所ない
- ・ 学校 0-6?土曜
- ・ 塾囲いこみすぎ
- ・ ストレス←一人ひとりみすぎ、プレッシャー
- ・ 楽しそう
- ・ みんな一緒に困っている
- ・ 企画
- ・ 予算も
- ・ 自由だからこそ決めていくつくっていく
- ・ 居場所と見える
- ・ あいている
- ・ 理解←youthCafé ある、共生社会
- ・ └情報・・・→どこに向けて発信すべき考えている

こども・若者と共に考えるユースワーク地域円卓会議 in 那覇 参加者アンケート集計

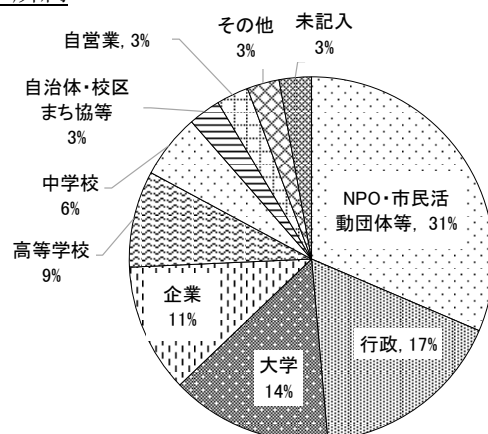
◆概要

- ・日 時：2025 年 11 月 19 日（水）18:15 - 21:00
- ・場 所：なは市民活動支援センター会議室 1
- ・着席者：9 名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：62 名（行政、自治会等地域組織等）
（アンケート回収 35 名、回収率 56%）

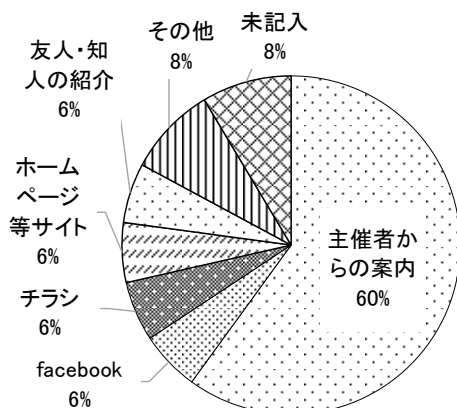
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.3（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
18名	10名	6名	1名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 多くの視点を頂きまして 情報量がとても多いので振り返りをじっくりやりたいと思います。
- ・ 充実した時間でした！とても楽しいです！企業側からの発言。新鮮で深堀りしてほしい。
- ・ 様々な立場から若者について考える人のが興味深かった。
- ・ 自分の子供の頃を思い出し、あの時は何もなかった、だからこそ学校におもしろいを探しに行っていた。自分で考える“場所”と“きっかけ”が必要と感じた。主体性を引き出すコーチングも必要かな?と思いました。
- ・ 私たちは高齢者の問題にアプローチしています。子供に関しての問題は詳しくなかったので、みなさんの話を聞き、問題の根本は似ていると感じた。社会が多様化する事で、問題も多様化していると思います。行政だけでは限界が来ているので、企業、地域住民、ボランティア、学校 etc が一丸となって取り組んでいけたらいいですね。
- ・ 私の知らなかった事業・取り組みが分かり、様々な人の意見をより身近に聴き考えを深められた。
- ・ ユースワークができる多様な主体がすでにいっぱいあるのだなと感じた。ワガママがで

きる、横にいるが心にひびいた。

- ・ 色々な立場の方が意見等を説明していて、とても勉強になった。子どもだった自分、大人になったばかりの自分、教員の卵としての自分の立場として参加させてもらったが、共感できる部分もたくさんあり、来て良かったと思った。
- ・ 自分がこれまで参加した会議と違って皆で一緒に考えているところがいい。
- ・ 自分が持っていない価値についてふれることができたため。
- ・ 私は沖縄に移住して 13 年、シングルマザーでユース世代の子を持つ母です。ユースの娘の安心は母の私の安心にもつながり、それがまた娘の安心にもつながるので、この豊かな大人たちが沖縄にいるなら大丈夫だ！私ももっとわがママを言おう！という気持ちになりました。
- ・ 最前線で活動されてる方の生の意見を聞けて良かった。
- ・ ちゅらゆいさん、アシタネさんの取り組みを知れたこと、色んな箱があり、検討次第では子どもたち若者たちの居られるところは増やせそうだと思います。
- ・ 前向な考えをたくさん聞けました。
- ・ 進行がスムーズでした。特に田邊さんの企業からの視点からのお話が新鮮で良かったです。
- ・ 様々な立場の方の意見が聞けた。
- ・ 様々な人の話を聞けたから。
- ・ ハイリスクの支援は、見えるのでやっていける。予防的な支援を見つけだすのは難しい様に感じた。

(4. 概ね満足)

- ・ センター・メンバーにユースが複数人いても良かったかもです。
- ・ 現場の人の意見だったり、グループワークを通じて、自身の体験を聞いて勉強になったた

め。

- ・ 現在の若い人たちの問題対応しようとしている関係行政策等の課題等わかりました。
- ・ 若者のポピュレーションアプローチにおけるユースワーカーの関わり方について多角的な意見が聞けた。
- ・ 英国でユースワークを学び、実践をしている中、共感したり、気づきの部分があった。地域の重要性を改めて考えさせられた。
- ・ 自身の知識が足りない分野だったが感覚が理解できた。
- ・ 興味の入り口としていいなと思いました。急になにかを決めようだとハードルが高いので、論点を共有するという場があるのがいいと思った。
- ・ 楽しかったけどすごいねむかったです。
- ・ 話を聞いている上での新しい発見や、共感できるところがあったり、サブセッションでは自分の意見、本音を周りの人に共有できたため。

(3. 普通)

- ・ もう少し一定の結論や指針のようなものを導くことにフォーカスした進め方の方が望ましいと感じました。
- ・ 自分には少しむずかしい話だったなと思った。
- ・ 大人達の話聞いていて、さいしょの方はねむかったです。正直言って、話の内容がよくわかりませんでした。
- ・ 話がむずかしくてよく分かんなかったけどよかった。
- ・ 円卓会議は、はじめて参加してみて着席者の人たちの話を聞いて、色々なところもあった。私は有意義な時間だと思ったが、今回のこども・若者と共に考えている感じがあまり見えなかった。お互いの意見を共有しあえる場としては、とてもいいと思った。
- ・ 話が長かった。途中から頭がいたくなかった。

でもちゃんと子どもの居場所などの点に関しては、きいててもちゃんと考えてくれているとわかった。ただ、会議をひらくならもうちょっとまとまった状態でやってほしかった。

(2. 普通あまり満足していない)

- ・ 暇な時間が長かったうえ、タイムマネジメントが全くなされなかった。最初に中高生の参加を確認し、終了時間の案内もあったうえでのあの進行は正直ありえないと感じた。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 「ワガママ」ってすごくいい言葉だと思います。View を大切にしたいです。
- ・ あまりにもあたりまえのことだけど、親の人権が守られていないのに子の人権が守られるはずはない。子供の問題は大人の問題でもあります。
- ・ 若者に聞かないとわからないことがある、、、ホント！です。だから youth だけによる円卓会議を見てみたい。
- ・ 余暇・余白って大切。自分に余裕はあるのだろうか。と考えました。陽翔さんが堂々と話をしていて頼もしく感じました。
- ・ 横にわがまま言っている人がいるのが大切。
- ・ 大人の余白時間を作るのもユースワークにつながる。場所の“目的”に目を向けがち、そうではない、そこから“自分”で“自分達”でやりたいを引き出す機会が重要かなと。
- ・ 地域づくりを一緒にやっていきたい。
- ・ 「大人の事情で、子どもたちの活動が制限されている」→小学校の部活動の指導者をしていいますが、教員の働き方改革により、担い手がいなくなり、部活動が廃止している状況を耳にしている。地域展開し、民間に委託しても、経済的に、送迎問題で通えなくなり、「部活動」という誰もが参加できる居場所がなくなろうとしている。
- ・ 様々な人が話す場面が設けられていた点がとても良かったです。
- ・ 面白いが誰でもできる。
- ・ 「子どものために」が大人の幸せになるというお話が印象に残った。そもそも大人も余ゆがなければ意味がないと考えさせられたため、印象的だった。
- ・ 大人のニーズが子供たちを圧迫しているということが印象に残った。
- ・ 子供たちの可能性を広げるためにしていることが逆に可能性をせばめているんだなあ〜と思った。
- ・ はるとの「わがまま」はすばらしいキーワードでした。
- ・ 事業の視点で福祉をブランディングする。箱に子ども達が集まる為には、この視点でもですが、上手く運営するために金銭的な余裕のある大人から収益を得る工夫もあれば良いのでは。また、その大人が行きたいと思える空間づくりブランディングかな？と思いました。
- ・ ハルトさんの考えがとても良かったです。
- ・ わがまを言える社会にしたい。
- ・ 真和志高校のとりくみが素晴らしいと思いました。ユース世代の話を直接聞く機会が中々なかったので、村吉さんを着席者にしてもらえて良かったです。意見もしっかりしていて素晴らしかったです。
- ・ 参加者同志の意見交換。
- ・ ワガママをいえる社会が大切。
- ・ ワガママを言ってい!!「ガチワガママ」いい言葉だと思った。まずは、子供達の声聞く事は大事。
- ・ 川中さんの、地域を変えとりくみをしていくこともユースワークという話が印象に残った。おとなのおぜんだての中で子ども若者が自己実現にチャレンジすることは本来の目的ではない、子ども若者本人が自分のやりたいことをやる！を実現するための取り

組み（おとなとの対話も含め）をどんどん創ってけたらいい！

- ・ 雑談の中でポロツと言ったことにトライでき失敗してもオモロかったら OK！と認められる体験がいいのだ！（発表できなかった若者の話）
- ・ ボランティアを単位として認めるアイデアが良いと思った。
- ・ 大人に余裕がないと、子供に優しくできないためまずは大人に余裕を持たせるために、社会が変わっていかなければならない話しが印象に残った。
- ・ 結局知られていない事が問題ではないかと思えます。
- ・ 村吉さんのわがままを言う人が隣にいるという発言。
- ・ たなべ氏の民間サイドからの発言がヒントになった。マインドも含め、若者の物の見方・感じ方をとらえること。
- ・ 3 セク、行政間の無意味で形だけの集まりが沢山ある中で、一般事業者の視点が入ると一気にそれらが変わるような気がした。屋良教頭の取り組みについて、大変興味深く、時に学校外活動の評価についての先進的な姿勢は今後更に広がってほしいと感じた。
- ・ 子どもの権利を侵外するのは大人だという話し。大人も会社や社会から権利を侵外されているという話し。大人に必要なのはなんだろうと思った。わがまま言うは、難しい気もしている。
- ・ わがままになる。
- ・ 真和志高校での取り組みがきけた！
- ・ 陽翔さんの「一家に一人わがままを」が良かったです。
- ・ わがままいう人一家に一台ほしいね。
- ・ サブセッションで、「正直、大人達が色々しゃべっていたけど、どうでもいい。子どもと若者の意見が聞きたい!!この円卓会議を子どもと若者だけでやればいいのに」と言ってい

て、たしかに!!とは思ったけど、いざこの円卓会議を子どもと若者だけで、自分の意見が言えるのだろうか、また、別のやり方で、意見が言えやすくする環境づくりが必要なのか、色々と考えてしまった。

- ・ 実際に子どもに聞いたりする時間をとるところはちゃんとよいと思った。
- ・ 公民館が使っていい場所か分からないという意見が出ていてたしかにと思いました。そして、利用者として話していた陽翔さんの「わがままな人を一人配置させる」というアイデアはユースセンター利用者として良いアイデアだと思いました。利用していて自分からなにか「やりたい」などを最初に言うのはハードルが高いので。

7. 会議運営へのご意見、感想等

- ・ 長い時間でもとても濃い時間であつという間でした！
- ・ Session1 がながくて、聞く方の集中力が続きません。内容も重なる点が多々あって、発表者の数を少し減らすのはどうでしょう。山崎さんの発表は具体的でおもしろかったです。それと川中さんのお話しはよく整理ができていておもしろおかしく聞かせていただきました。今回は大人による（ある意味大人のための）円卓会議だったような気がします。
- ・ とても学びになりました。運営ありがとうございました。
- ・ 大変勉強になります。ありがとうございました。
- ・ 他の会にも参加してみたいと感じました。
- ・ サブセッション、他の人がどんな感じで話しているのか見てみたいです。
- ・ とても良かったです。
- ・ 場をふやしても、子供たちの気持ちだったり、行くこと自体に、億劫になってしまう空気をなくしないとなかなか解決できないと感じた。

- ・ 子どもの参加について運営メンバーは本気で考えたかを知りたい。休みはなく、時間も守らず、内容も・・・と会議の内容と運営体制にギャップを感じました。参加した子どもにも何か持って帰えらせることもできればよかったと思いました。
- ・ セッション1が長かったと思いました。途中休けいがあってもいいかと思いました。

(写真) 会場の様子



- 遊びにも誘わねえ
- ・大人も忙しい
 - ・会員の参加者多い
若者支援の関心高い
 - ・中学生6.7月からマシタ利用
 - ・学校、児童館、公民館
熱意ある人いるのに建つ方向
向いてる
 - ・7クルは支援してる感覚ない
一緒に遊んでいる
 - ・歌いたい人が歌える。
→スタッフもやりたいことできる
→スタッフはどこまで自分見せる

学校 → もっと自由にしてほしい
小学校 高学年から不登校多い
児童館 キーパーの問題
今し幼少の対応しながら
不登校の対応できない

何がしたい？
ときかたでも答えられたいよ

遊ぶにも
休まず
+おと
決められない

オレンジジュース？
トットジュース？
グレープジュース？

雑談で → Try
これ好き
やってみよう
ボッ
チャレンジできる
失敗してもOK!
おもしろがる

若者

もうちょっと
ゆるくすれば
いいのに！
中学→高校→大学？
スピードが早い！！
「疲れた・休みたい」

おと子は
価値感が固まって
しまっていて今の若者の
気持ちとはかけ離れた！！
若者にききたい。

関わり・段階...?

かかわり方が
むずかしい

「子どもを理解すること」
といわれるけど 大学生でも
むずかしい
けど

「こういう時 どうしてほしかった？」
って言うけれど、ききたいと聞いけど
自分で考え

行ってるやらない → 正しいとほまらやらない
こともない カラダ"になってる

"が子わがまま" きてほしい
行ってるおこさないから実現しない
おこし方がわからない 言いたくはない
の話題に合っている。

大人 → 子どもへの関わりむずかしい、
子ども → のかってほしい。
「や、」といわれたい どうしかな...

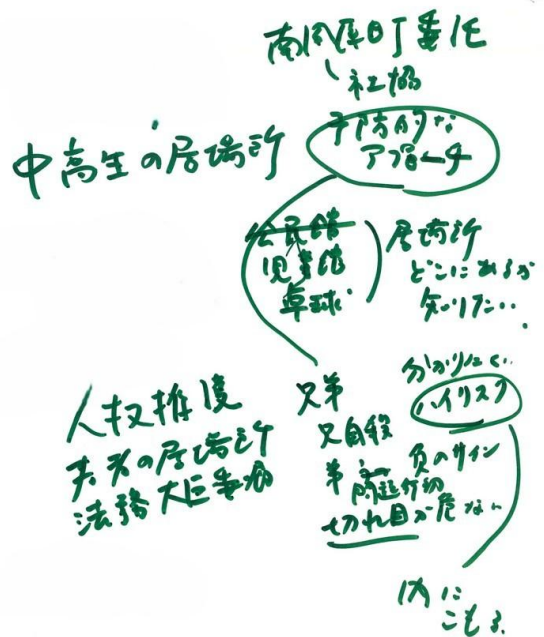
- ・ やりたくなるしかけ
- ・ やりたいときに実現できる環境
↓
つながりが必要

居場所が小学校の近くにあり
(と行ってもお話をしちゃうってかたがたがね)
フリースクール・スタッフが大切
子供たちは居場所のフリースクール
不登校も同じな感じとして
居場所を作る
かんこう 居場所を作る中
たにさんお話をどうにかしようと
してくれている

みんなとしか多分いい
100%合致するところがない
同じ年代の人があつまることと
色んな人があつまることと両方ある
いい
元々たにさんとかかちるよう
たにさんとかかちる◎

~~居場所~~
居場所のふたつでこの
ような じんがー できるか。
かき出さるようなこと。

寝る子もいるけど、それを許していい場所には"目的"を求めすぎ
大人と対等に話す機会が必要
大人と子供一緒にゲームや勉強出来る場所が必要
考えすぎるとよくないけれど
考えすぎる(子のことを)大人ほどよく
時間がなすぎ。(何もな時間)



環境も自然と決まる
行政がそれと関係、思いつく
こぼれる、見えない
後でつぎに、
必要とするとくじけかけ
管理とは難しい...

新卒生協会の
就活にいい。
志望が強い
面接
中絶は
必ず
つなげてくもさん
宗任環境
親が決めちゃう。

1パーラ - うかじんぼう

問題: ポイ捨て... 排除

人と関わる場所 → 仕事しかない。
いっしょに楽しめる場所

子ども、若者、しおわせ。

自治会、こども会

意見を言う

こども、貧困対策

あちこちでこころを繋ぎ

空白の時間に集まれる

不登校等ルール。どこからきてもいい

・むずかしい言葉をしてるよー

・ユースセンタースタッフでもあふかん

その場に女も来ている (終活者)

子どもにとって安心 - 親も安心 -

・得意も提示する場をつくら
(まわし高校を)

・大人9余段余前について改めて考えた。

・~~9余段~~ 樹にいて? マヤル → ケム、音楽

川満 → 中々ない 子どもチームに協力

伊波 → 釣り、友人と。

④ 19さい!!

色々な人・年代と関わる

みたい。

仲良くなりた

① 居場所

食事の提供だけでは良くない
インパクトがあった。

② 児童館 公民館 に弟が 行ってる。
(中学生)

→ 来てもいいよの声かけがあった。
つながりがあった、いいなと思った。

③ 子どもの居場所

大人の事情でなくなっている。

[部活動がなくなっている]

保つ者が見てくれていた方がいいけど、

みれない学校だと部活動がなくなっている。

地域格差
うまれている。

若者の声

不登校、ひきこり経験者たちあつた...

- * 居る場所が増えて
まじり！
- * 自分が困っていた時は
公民館のとにかくも知らぬに
- * 選べるあたかも股が増えて
いる！ 合う場所、合わない場所
がある！！

